

280

敬告すべき各方面の観測

如何に轉換されるか 英國の極東政策は

特240

64

安芸濱夫著

10
セン

昭和書房

1



0011080000

0011080-000

特240-64

英國の極東政策は如何に轉換するか

安芸濱夫・著

昭和書房

昭和13

ABJ

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月2日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

特 240
64



安 藝 濱 夫 著

英國の極東政策は
如何に轉換するか

昭 和 書 房 版



目次

- 一、英國外交の一大轉換……………(一)
- 二、チエンバレン外交の本質……………(八)
- 三、極東外交は如何に轉換されるか……………(二二)
- 四、英國の過去に於ける極東政策……………(二四)
- 五、南京政府援助と英國の對支外交……………(二九)
- 六、對支經濟發展計畫の破綻……………(三七)
- 七、一般の觀測は餘りにも樂觀的……………(三一)
- 八、前途は斷じて樂觀出來ぬ……………(三五)

英國の極東政策は 如何に轉換するか

安 藝 濱 夫

一、英國外交の一大轉換

ヒットラー總統は二月二十日國會に於ける演説中、日支紛争に關し『日本の絶對的勝利は、ソ
ヴィエト聯邦の極東進出に比し、如何に優るか火を賭るより明かだ、獨逸政府は此見地から模範
的な中立的態度を持し來つた、若し各國が目に餘る一方的對支援助を遂行しなかつたならば、東

亞の紛争は既に過去の物語となつてゐたであらう」と言明する處があつた、『各國の目に餘る一方的對支援助』云々の『各國』とは、英國を始めとする三四國を意味することとは問はずして明白である、北支事變勃發當時に於ては、英國は、我國の行動に對し比較的冷靜なる態度を保持して居たが、戰火上海に飛んで、遂に全面的日支の衝突となり、支那軍に敗色歴然たるものあるに至つて、猛然我國の行動阻止を開始すると同時に、其が恰も同盟國であるが如き援助を支那に與ふるに至つた。

對支借款や武器軍需品の供給はまだ良いとしても、上海戦線に於て我國はどれ程英國の爲に其軍事的行動を妨害されたことか、實に枚擧に遑ない位である。

ヒューゲッセン駐支英大使負傷事件に關する不遜なる抗議、カンクベリー大僧正を司會者とした反日國民大會、國際聯盟を動かしての日本の侵略呼り、米國を躍らせての九ヶ國條約國會會議開催、我海岸線封鎖に對する英艦隊の示威運動、支那ジャンクを利用しての我内火艇の蘇州河廻江妨害、上海に於ける支那軍の英國軍隊守備區域内利用の黙認、一として我國民の對英憤激の種ならざるものはない。

支那事變勃發以來、我々の記憶に残る英國の不信的態度の主なるものを掲ぐるも既に以上の如くである。我々の聞知せざる、又た我々の記憶に残らざる事件を擧げ來つたならば、我々をして英國の對支援助の斯くも露骨にして件數の莫大なるに切齒扼腕せしめずんば已まざるものがあると思ふ、支那事變に關する英國の對日抗議が四ヶ月間に六十件の多きに上り、國際抗議の新記録であると特筆した外字新聞すらあつた、實際英國の對支援助はヒットラー總統の言つた如く『目に餘る一方的對支援助』であつたのである。

斯る英國の露骨なる支那援助に對し、感激し易い我國民がどうして沈黙を守つて居やう、果然國內の輿論は大に沸騰し、何人も英國の非友好的態度を非難せざるものなきに至つた、或者は多年の親英主義を一擲して反英主義に轉向した。或者は英國〇〇べしと絶叫するに至つた、芝公園に開催された國民大會に於ては本多熊太郎氏が、斷乎として反英的熱辯を揮ふあり、また故山本悌二郎、頭山滿、小林省三郎、建川美次氏等は對英同志會を組織し、十一月二十二日日比谷公會堂に國民大會を開き、痛烈なる反英決議を行つた、更に菊地武夫男、宮田光雄、俵孫一、小久保喜七、今泉定介、清瀬一郎氏等の當代錚々の人物は、辯に筆にいづれも揃つて排英的意見を呼號

して大に國民の對抗意志を表示する處があつた。

國際間の友好は國民相互の友好ほど貴ぶべきものはない、其と同時に國民相互が抱く憎惡ほど恐るべく危険なものはない、官憲と官憲との間に行はれる國際的交渉は、常に冷靜であり、事務的であり、政策的であり得るが、國民と國民との國際的交渉は、興奮的であり、感情的であり、超政策的である、故に國際間の紛争は多く國民と國民との間に抱かれる憎惡に原因することが多い。

世界大戰はセルビア國民の反塊匈國思想が其端緒となり、滿洲事變、北支事變、上海事件は誤れる支那政府の抗日思想煽揚に毒せられた無智の兵士に依つて點火せられた、一方には一國崇敬の的となりつゝある宗教の第一人者まで擔ぎ上げて反日思想を煽動する集團的運動あり、他方には英國の不信を糾弾して日本國民の決意を表示するの國民的運動が起つた。近衛首相は「英露と戦はなければ支那問題は解決し得ないといふ様な考へ方には賛成出来ない」と云つたそうであるが、我國民中の大部分は蔣介石政權の背後にある英國を何とかしなければ、支那膺懲の目的は斷じて貫徹せられずとまで思意したのである。幸にして我國と英國との間には冷靜なる官憲と海洋

との隔りがあつた、若し此二つのものがなかつたならば、日英兩國は一觸即發の危機に瀕したかも知れなかつたのである。

斯く我國と英國との間に禍機が成熟し來り、日一日危険の度合が濃原となつて來た時に、英國外交政策の一大轉換が行はれた、即ち理想主義者たるイーデン前外相が退き、現實主義者たるチエンバレン首相が外交政策の表面に立つに至つたのである、イーデン前英國外相は、英國外交の中心を國際聯盟に置き、所謂集團的安全保障制を堅持し、飽くまで所信に邁進せんとするに反しチエンバレン首相は英國の外交を國際政局の現實に即せしめ、險惡なる狀勢にある對伊獨外交を調整して歐州の不安を一掃せんと欲するのである。

更に換言すればイーデン前外相の歐州方針は、英、佛、ソ三國を結合して、ローマ、ベルリン樞軸に依る伊、獨兩國に對抗し、歐州國際上の均勢を保持せんとするに反し、チエンバレン首相は從來對立的關係にありたる伊獨兩國との外交關係を調整し、依つて以て歐州の不安を一掃せんとするにある。

此兩者の意見の對立は決して最近に起つたものではなかつた、昨秋以來既に英國外交の痛とし

て云ひ傳へられて居たのである、チエンバレン内閣の倒潰を見るか、イーデン外相の辭職を見るか、早晚重大なる問題として表面化すべき運命にあるものと豫期せられて居たのである。

處が遂に其時機が到來した、二月二十日對伊國交調整問題が、英國の緊急閣議に上ると同時にチエンバレン首相對イーデン外相の意見對立は最後の段階に立つに至り、イーデン外相は遂に其職を辭して仕舞つた。

イーデン外相が辭職するや、チエンバレン内閣に對する議會の反對的氣勢は俄に上昇した、外相辭職問題は二十一日より議會の問題となり、二十二日には早くも労働黨から内閣不信任案が提出された、其理由とする處は『イーデン外相辭職の経緯に就き遺憾の點あり、政府の外交政策に信任することを得ず』と云ふにある、此不信任案は労働黨議員アーサー・グリーンウッド氏の名を以て提出された、イーデン外相の辭職問題より俄に人氣を失つたチエンバレン内閣は、此不信任案の結果總辭職をするか、或は議會の解散を行ふか、二者其一を出でねばなるまいと注目されたのである。

然るに此豫想は美事に裏切られた、不信任案表決に先立つてロイド・ジョージ氏の如き大物ま

でが飛出してチエンバレン首相を攻撃し、必死の應援を送つたまでは良かつたが、表決の結果此不信任案は三三〇對一六八の大差で敗れ、遂に政府側の勝利に終つた。

それと云ふのは政府側に多少有利な點があつたが、イーデン前外相の態度に餘り香しからざるものが存したのも確に敗因の一つとなつたのである、即ちロイド・ジョージ氏は表決前、イーデン外相辭職前に到著した伊太利政府の重要書類をチエンバレン首相が握り潰したと云ふ事實を素破抜き、首相としての不信行爲を攻撃するや、一平議員として出席して居たイーデン氏が此事實を裏書したのである。

議場は甚だしく緊張した、がイーデン氏の此態度は去り行く人の態度として英國紳士には決して好感を興へなかつた、保守黨からはイーデン氏に罵聲を浴せかけるものすらあつた、斯の如くしてイーデン氏に同情を寄せて居た一部すら亦た甚だしき不滿を抱くに至つた、チエンバレン對イーデンの紛争は單に政策上の問題はかりではなく、感情の對立が伏在して居たと云ふことが暴露された爲であつた、政府側に取つては之は甚だ満足すべき結果であつたらうが、イーデン前外相並に其一派に取つては、正に千秋の恨事とも云ふべきであつたらう。

二、チエンバレン外交の本質

イーデン前外相在任中に於ける英國の外交は八方皆な敵と云ふ状態にあつた。英國依存を建前とする佛國や。佛國との間に深い契合あるソ聯との關係は、無論良好であつたに相違ないが、伊太利並に獨逸との關係は單に西班牙問題ばかりでなく事毎に衝突して居た、何んでもかんでも國際聯盟を中心とし、其聯盟の蔭に隠れて伊、獨兩國を押し付けんとした此の英國の外交方針に對しては佛國やソ聯は甚だ心強しとして居たが、獨、伊は決して満足せぬ、獨逸は聯盟を有害無益呼ばりをし、伊國は我國に倣つて脱退して仕舞つた、そして伊國は直接エチオピヤや併合承認問題を始め、幾多の要求を英國に交渉せんとする態度に出でた。

此際英國か若しイーデン外相の理想主義に従ひ、飽くまで伊國の要求を拒否したならば歐州の將來は果してどうなるであらうか、チエンバレン首相の憂慮は全くこゝにあつたのである。

英國は嘗てエチオピヤ問題に於て、伊太利を制壓せんとして却て反對に威嚇された、其が爲め

遂に一九三七年春の五ヶ年十五億磅の再軍備計畫となつた譯だ、獨、伊が如何に騒いでも戰爭に訴へてまでも自國の主張を貫徹せんとするものではない、如何なる問題が起つても數年間は之を引延し得る、此間に五ヶ年計畫の再軍備が完成すれば、歐州の事は英國の意の儘となる、これがイーデン前外相の秘められた意圖であつたらしい。

故に伊太利より提起された英伊親善強化を目的とする會談の要求に對しても、チエンバレン相は先づ或程度まで伊太利の希望を原則的に認めて正式會談に入り、然る後に兩國間の諸問題解決方法の細目討議に入るを是なりとしたるに反し、イーデン前外相は伊太利政府の反英宣傳は世界中にバラ撒かれて居る。この敵意ある宣傳が停止されぬ限り、對伊交渉を開始することは出来ぬ、先づ伊太利義勇軍の西班牙撤退問題解決を先決条件とすべしと強硬に主張し毫も譲る處がなかつた。即ちイーデン前外相は飽くまでも大英帝國の威信を保持し、伊國を或程度まで押へ付けて置いて會談に入らしたのである。

併し歐洲國際政局の現状は、イーデン前外相の眼に映するが如くには、チエンバレン首相の眼に映じて居なかつた、獨、伊の提携は極めて強靱であり、他の群小國も日一日之に吸引せられて

行く有様である、之に反しソ聯は思つた程の實力を有せず、佛國に至つては只だ英國の厄介物たるに過ぎぬ、此現實の上より見ればイーデン前外相の主張は餘りにも理想的であり非現實的である。此際徒に過去の不用意なる聲明に捉はれて歐洲國際間の空氣を之以上に險惡ならしむるに於ては如何なる事態の發生を見ないとも限らぬ。此際伊太利より會談要請のありたるを機會として斷乎親善政策に進むに如かずとなしたのである。

斯くて首相對外相の意見は全く扞格し、亦た如何ともすることが出来なくなつた、こゝに於てかイーデン前外相は遂にチエンバレン内閣を去るの已むを得ざるに至つた、イーデン前外相既に去れば英國の外交政策は當然チエンバレン首相の意に依つて行はれざるを得ない、チエンバレン首相は伊太利との親善關係回復に熱心なると同時に、獨逸に對しても昨年十一月ハリファックス樞相（現外相）を伯林に送り英獨親善工作に關する獨逸政府の意向を打診せしめたことがあつた程に親善を要望して居る、列國が之を以て英國外交の一大轉換なりと觀るは、正に當然の觀測と云はなければならぬ。

三、極東外交は如何に轉換されるか

チエンバレン首相がポールドウィン氏の後を襲いで現内閣の首相となつたのは、今年の五月二十八日であつた。當時氏は

- 一、米、佛との可及的接近提携
- 二、過去二年間の英、獨關係惡化を阻止するため、獨逸との友誼的諒解を確立すること
- 三、伊太利との諒解を深め、地中海、アフリカ及び近東に於ける英伊間の軋轢を緩和すること
- 四、西歐安全保障條約を締結して、既に死滅化せるロカルノ條約に代らしめ、歐洲の安定を圖ること

五、極東の事態を安定せしむる爲め日本と協定を結び、英國の在支權益の安全保障を圖ることを以て新内閣に於ける外交方針の大原則とした、併し留任したイーデン前外相は却々此五大原則に従はなかつた、殊に第二項第三項に對しては却て反對の方向にすら走り勝ちであつた、もつと

も傍若無人的なヒットラー、ムツソリニ一兩氏の爆弾的強力外交に對しては英國民は決して好感を以て迎へて居なかつた。イーデン外相がチェンバレン首相の抱懐せる外交方針の如何なるものなるかを知りつゝも、尙ほ第二項、第三項の實行をなし得なかつたのも、此等英國民の意志の反映であつたかも知れなかつたが、第一項の『米佛との可及的接近提携』はどうやら豫定通りの進行を見ながら、獨、伊兩國に對する外交の思ふ通りに行かなかつたことは甚だ遺憾であつたと云はなければならぬ。

併し今日に於ては純理的な且つ理想主義のイーデン外交は退却して、現實主義のチェンバレン外交が新に登場し、華かなる歐洲の外交舞臺に於て、如何なる所作を演ずるか、各國は片唾を呑んで其一舉一動に鋭い眼光を注いで居るのである。我々日本國民に取りてはチェンバレン外交のプログラム中に於ける第五項『英國の極東政策』こそ至深至大の關係を有する當面の重大問題である。第一項より第四項に至るまでの今後の成行に關しても無論至大の注意を拂はなければならぬが、第五項こそ東亞の安危に關する分水嶺的な存在としなければならぬ、イーデン外交當時の英國の對極東政策は、決して我々國民を満足せしめ得る外交ではなかつた。否な多々の嫌惡

と不快と憤懣すら抱かしめ、日英紛争の危機をすら招來するに充分なる危険外交ですらあつたのである、知らず新に登場したチェンバレン外交の極東政策は、果して如何なる内容と外觀とを以て紛糾せる東亞の事態に臨まんとするであらうか。

英國の極東政策の核心は、徹頭徹尾支那に於ける既得權益の擁護と經濟的利益の擴大である、更に望むべくんば政治的の進出である、此方針は過去百年に餘る長い年月の極東政策であつたと同時に、將來永却の英國の極東政策であり得やう、イーデンがチェンバレンに代らうが、チェンバレンが何人に代らうが、變るは唯だ其方針貫徹方法の形式だけで、此征服的方針は斷じて變らぬのである。

人は能く英國の極東外交の際限なき進出的方針を目して、印度の安全保持の爲めのみと云つて居るが、印度の安全保持の爲めに何んで支那に於ける彼が如き悪くどい進出を必要としやう、表面的には主として投資とクレジットと云ふ資本主義的な様相を装つて進行はして居るが、其核心の帝國主義的侵略にあることは英國の存在する限り、極東殊に支那に對する未來永却一貫した政策でなければならぬ。此點日本國民の一日も忘却してはならない點である。

四、英國の過去に於ける極東政策

英國が對支外交に觸手したのは今から約百三十餘年前の一七九二年にある、マーカスト卿を使節として支那に派遣したが、支那の事情に通曉しない此等の一行は悉く支那政府の爲めに輕視せられ、甚だしき侮辱を受けて後退するの已むなきに至つた。

こゝに於て第二回目に送つた英國の使節はアンハースト卿であつた、アンハースト卿は散々印度で辣腕を振つた東印度會社の首長であり、且つマーカスト卿等の調査に依り、支那の國情が全く印度と異なることを聴取して居たので、支那政府に對する交渉は實に抜目がなかつた、一行は先づ當時既に支那に對して勢力を伸して居た西班牙、ポルトガルと平等の待遇を得んことを欲し、支那沿海及び揚子江沿岸の要所々々に開港場を開設すること及び支那地方官吏の肅正を斷行することを要求した。そればかりではなく支那に對する東印度會社の利益保證と阿片貿易の獨占權授與を要求したのである。

西班牙ポルトガルと既に通商關係にある以上、同じ歐洲に關する英國を獨り特別扱とし、之と通商せずと云ふ理由もなく、通商するとすれば支那沿岸並に揚子江沿岸に開港場を開設する必要あることは明白な事實であるから、支那政府も之を頭から拒否することは出来なかつた。且つ阿片貿易に關しては支那が年々多額の茶を個人又は東印度會社の手を通じて英國に輸出して居る點から見れば、これ又た支那政府の全然拒否し能はざる處であつた。支那の地方官吏の肅正に關しては直に之を默殺し得たとするも、通商貿易の件に關しては考慮の餘地あるものとして保留して居たのである。

既に此保留ある以上、英國は支那政府の回答を待つ必要がない、支那政府特有の遷延政策を尻目にかけて、當時支那の門戸となつて居た廣東に駐在する支那官吏を買収し、一八二〇年頃から阿片を持ち込んだ。

それが爲め一八〇〇年頃には印度阿片の支那に流入する金額は五十五萬八千磅、其より十五年を経た一八一五年ですら六十六萬磅に過ぎなかつたのが、此支那官吏買収後に於ては俄に其流入額を増加し、十年後の一八三〇年には二百四十七萬二千磅、一八三九年には三百五十八萬磅と云

ふ多額の數字を示すに至つた。驚くべき進展であると云はなければならぬ。

此東印度會社の名に於て行はれた英國の對支阿片政策は、其後間もなく英本國に於ても問題となり、如何に國策なりとは云へ餘りにも人道を無視した惡虐行爲であるとし、一八三二年の英議會に於て政府は一議員より攻撃を受けたが、國家の利益の爲めには人道の如きは蹂躪するに躊躇せぬ英國の傳統的政策である。國庫の窮乏を救ふが爲めには己むを得ずとの理由に依つて依然として此阿片政策を繼續した。

一方支那政府にありては阿片流入の國民保健上に由々しき問題なるに氣付くと同時に、之が爲め銀の海外流出夥しきに鑑み、阿片輸入禁止令まで公布して之を嚴重取締らんとしたが、官吏の買収に依る阿片輸入であるから毫も其効果は現はれない、遂には愛國運動まで起るに至つた。

こゝに於て流石の支那政府も之を放任して置くことが出來ず、湖江總督林則徐を欽差大臣に任じ、一八三九年廣東に赴任せしめた、林則徐は早速密偵を放ち、外國商人を調査せしめた處、其九割までが英國人で、其等がいつれも阿片密輸を業として居るので大に驚き、阿片禁止令や隱匿阿片の提出令を發表して根本的に其弊を除かんとしたが、之も亦た寸分の効果をも擧げ得なかつ

た、廣東官憲も事こゝに至つては遂に施すべきの策もなく、己むなく英人會社を襲つて所藏の阿片五千箱を押收し之を燒却して仕舞つた。

英政府は支那官憲の此行動に對して極度に憤慨し、直に軍艦十六隻、大砲五百十門、武装船五隻、運送船二十七隻、陸兵四千名を動員し、忽のうち廣東、舟山列島を占領し、寧波、廈門を攻め、更に兵を分つて一部は長江方面の要地たる吳淞、鎮江を経て南京に肉迫し、他の一部は北上して首都北京に進撃したのである。

此疾風迅雷的なる英國の武力侵略に對しては支那政府も大に困惑し、己むを得ず一八四二年南京條約を締結して、英國に對し香港の割讓、六百萬弗の阿片賠償、千二百萬弗の戰費賠償、三百萬弗の英國商人に對する未拂負債償却、廣東、廈門、福州、寧波、上海の開港、英支貿易關稅の設定等の諸條件を以て和を講じた。

英國の支那侵略史を語るものは、必ず此阿片戰爭を以て、英國の支那大陸に於ける帝國主義的侵略の第一歩として特筆大書するが、實際英國の支那侵略は此阿片戰爭を以て發端とする、そして其政策の惡辣にして非人道的なるは全く云ふに忍びざるものがある。而かも之に依つて英國の

對支阿片政策は終幕を告げたかと云へば決して然うではない、一八五六年、廣東に於ける阿片密輸入者が英船アロー號に遁入したので、支那官憲が同船に乗込み、十六名の犯人を檢舉し、英國々旗を引裂くや、英國は再び之を口實として支那政府を威嚇し、遂に天津條約を締結せしめて揚子江岸の開放、牛莊、芝罘、臺灣、潮州、瓊州の五港の開港、支那内地旅行の自由、通過税の制定、沿岸貿易の確立、治外法權の創設を承諾せしめた。

處が支那政府が例の遷延政策を以て條約の實行を躊躇したので、再び之を問題化し一八六〇年條約の勵行督促を名として武力壓迫の結果、北京條約に依つて香港の對岸たる九龍を割取し、天津を開港せしめた、實に支那は英國に依りて始めて其領土を侵略され、慘虐なる屈服の苦杯を嘗めさせられたのである。

併し英國の支那に對する酷虐なる政策は決して止まる處を知らなかつた。算盤の下に劍を隠した英國の惡辣なる外交は、幾たびか支那の官民を驚かした、のみならず他國をして之に模倣せしめたのである。

一八九七年、獨逸は膠州灣を占領した、一八九九年、佛國は廣州灣を租借した。併し獨逸は山

東省曹州府に蜂起した暴徒に依つて宣教師二名を殺害された結果である、佛國は士官二名が支那兵の爲めに、宣教師一名が暴徒の爲めに殺害された結果とも見られる、原因として一名の殺害者もなかつた阿片戰爭に於て英國が莫大の利權と賠償金を支那より而かも三回にわたりて奪取したに比すれば極めて輕微なりとも云ひ得る、而かも其範を垂れたるものに英國あるに至つては自然の歸趨とも云ひ得ないではない。

併し英國の支那侵略慾は此二國の行動を虚心淡懷を以て眺めて居ることが出来なかつた。貪婪飢鷲の如き露國が、獨逸の膠州灣占領と佛國の廣州灣租借に成功せるを羨み、旅順、大連租借を強要して其目的を貫徹するを見るや、英國は各國との均衡を名として威海衛租借を支那政府に強要し、亦た九龍地方租借を要求した、其理由は露國が旅順、大連を得たる以上は之が均衡上威海衛を得なければならず、佛國が廣州灣租借に成功したるに對しては之も亦た均衡上九龍地方の租借を得なければならぬと云ふのである。

支那政府は結局此無法なる英國の要求をも容れたが、當時の駐支公使マクドナルドは憤然卓を叩いて怒號し、老來頗る氣の弱くなつた李鴻章を脅し付けたと云ふ事實さへある、之が今日日本

の對支膺懲を以て侵略呼ばりをなしつゝある拂拭し得ない英國の過去に於ける支那侵略の一事實である。

五、南京政府援助と英國の對支外交

英國が支那に於て最も目醒しい活躍を始めたのは、一九二七年蔣介石が南京政府を樹立した以後のことである。之までも英國の支那に於ける活躍は相當目醒しいものがなかつた譯ではないが、それは單なる通商上の活躍に過ぎず、列國に比して僅に頭角を現はして居たと云ふ程度であつた。支那の政權と結び付き、其權力を利用して經濟界に確乎不拔の根を卸すに至つたのは、何と云つても蔣介石政權樹立後のことであつた。

英國は華盛頓會議に於て日本との同盟關係を一擲した、之に依つて米國との關係は極めて圓滑に進んだが、極東に於ては其政策の樞軸を失ひ、且つ列強の對支協調も破れて仕舞つたので殆ど無外交と云つて差支へない程の消極的態度を持するより外はなかつた、殊に一九二四年より二七

年に至る間と云ふものは、支那の革命勢力が共產黨と握手し、反帝國主義反資本主義運動を興したので、英國の立場は益々不利となつた。そして動もすれば其既得の權益さへ此運動の爲めに脅かされんとしたのである。

處が一九二七年に至り孫文の後繼者たる蔣介石は、南方政府内の左右兩派の抗争を阻止する爲め共產黨に對し大彈壓を加へ、武漢の共產黨政府を倒して新政府を南京に設立した、そして列國の權益尊重を表明して國內政治に一大改革を斷行したのである。

國民黨の爲めに散々手を焼き、其上共產黨にまで脅かされた英國は、此南京政府の樹立に依りて漸く從來の難を免かれたが、此南京政府がどの位の鞏固性を有するか不明である。故に英國は一方に於て南京政府と手を握ると共に、他面に於ては反蔣介石派たる西南政權とも手を握り、一意専心自國の利益擴大に努力したのである。

英國は其他に向ほ四川の軍閥とも手を握つて居た。將來四川軍閥が興るも、西南派が天下を制しても、乃至は南京政府が絶大なる權力を揮ふに至つても、斷じて不利益を招來せぬやうにと云ふのが英國の對支政策であつたのである、否な軍閥でも政權でも、苟くも地方に權力を有する者

に對しては悉く之と握手し、自國の利益を増大して行くと言ふのが英國の政策なのである。

英國の斯る兩天秤式な實利主義的な外交は久しきにわたつて繼續した、そして巧に自國の經濟的利益を擴大強化して行つたのである。ところが何と云つても南京政府が浙江財閥と深い關係を有するに至つたことは、英國に取つては此上もない好都合であつた、蔣介石が浙江財閥を手に入れたのも、浙江財閥が南京政府と深い關係を結ぶに至つたのも、要は蔣介石が浙江財閥の蛇蝎の如く忌み嫌つて居た共產黨に大彈壓を加へたのと南京政府内の一巨頭たる宋子文が其妻女たる宋美齡の兄たることに原因して居る、浙江財閥に取つては共產黨の跳梁跋扈は到底忍ぶ能はざる處であつた。蔣介石が斷乎として共產黨を彈壓し、一九二七年ボロジン、ガロン等一派百餘名の露國人を追放したのは、之に依つて浙江財閥と握手せんとする下心に依るものであつたかどうかは知らぬが、兎に角南京政府と英國とが結び付いたのは、共產黨彈壓に依る南京政府對浙江財閥の握手に原因すると云つて差支へないのである。

浙江財閥とは今更云ふまでもなく寧波、紹興、杭州、浙江、無錫出身の支那商人の資本的集團である。此資本集團は上海に在つて英國の經濟力に寄生し、國際資本主義の對支發展の仲買とし

て肥大した、上海に於ける英國の投下資本は約二十五億に上ると云はれて居る處から見ても、浙江財閥は其大部分に於て英國の資本の上に立つと云つて過言ではない。一時は賣國ブルジョアの悪名を馳せたこともあるが、資本の力は強大である、蔣介石の政治的權力と結び付くに及び、蔣介石の爲めにも幾多の便利を與へたが、自らも利すること甚だ多く、益々發展して其經濟的勢力は支那全土を風靡するの概があつた。

英國は此浙江財閥を基礎として漸次南京政府内に喰込み、一九三五年には幣制改革の援助まで行ふに至つた。それと云ふのは之より先き英國は鐵道問題の權威者たるハモンド少將を支那に派遣し、鐵道を中心に鑛山、産業等の開發に關し詳細に調査研究せしむる處があつた。其調査の結果に依れば、支那の政治的、經濟的安定の續く限り、對支投資の極めて有望なることが確認された、併し支那の幣制は當時は尙ほ複雑であり且つ不完全であつた、故に若し此幣制さへ改革するに於ては支那は英國の無限の市場であり、同時に在支英國勢力を伸展せしむることは決して不可能でない、こゝに於て英國は支那に對する飛躍的活動の前提として金融界の安定を期すべく幣制の改革を提言し、之を援助するに至つたのである。

英國は無論其効を英國一個の手に收める爲め單獨行動を欲した、先づ日本の反對の口實を封ずる爲めに一應誘引の形式を取つたが、果然日本が共同工作反對の意向を示したので其後は何の遠慮もなくプラン通り南京政府と打合せを遂げ、徹底的援助を與へて幣制を改革し、支那幣制を自國のポンドにリンクせしめて仕舞つたのである。

若し日本が此時其共同工作に加はつて居たとしたならばどうであらう。日、英の外交關係は今日よりも更に複雑なものとなつて居たかも知れぬが、英國が今日程眞剣となつて支那援助を企てるやうなことがなかつたかも知れない。それと云ふのは英國が斯の如く支那の幣制改革に徹底的援助を與へたのは、單なる經濟的發展のみを目的としたのではなかつた、其政策中には多分の對日本政策も加味されて居たからである。

即ち英國が各地方別に軍閥政權と握手し、之に依つて自國利益の擴大強化を圖ると云ふ從來の方針を改め、南京政府に徹底的援助を與へて其支配力を強固ならしむるに於ては、英國の對支發展上最大の障碍物たる日本勢力の防壁たらしむることが出来るであらうとの考が存したのである。其ばかりでなく最近漸く擡頭の氣分にある日本系財閥を化して英國依存の階級たらしめ得ると云

ふ考へもあつたらしい。

英國の此計畫は大體に於て成功であつた、幣制改革の援助に關し日本を除外し得た英國は直に支那の經濟建設援助に着手した。經濟的建設とは鐵道を中心とし之に沿ふて大工場を設立し、大に支那の工業を興さんと云ふのである、眞に支那は其地圖の如何なる部分に線を引くも鐵道計畫が立ち、これが又た何れも收支相償ふ望みがあると云はれる程に無限の市場地である。其上英國の此經濟援助の代償としては資金は云ふに及ばず、材料、技術までも英國の供給を要件とする。云ふのであるから、英國の産業に一つの光明を與へたと云はれるのも決して無理のないことである。

英國の産業は嘗て其輕工業に於て實に世界的發展を遂げた、併し最近に至つては日本産業の擡頭に依つて各方面に於て悩まざるゝに至つた。殊に支那に於て其甚だしきを加へて居る、故に英國は支那に於ては専ら重工業の發達を目標とし、傍ら輕工業を盛んならしめて日本のそれに對抗せしめんとする方策を立てた、重工業に於ては米、獨が競争相手であるが南京政府との握手に依つて此點は多く憂ふるに足らぬ。斯くて英國の支那に於ける經濟的進出は漸く完全なる計畫の

下に行はるゝことゝなつた。

ハモンド少將に次いでハリスロスが英國から支那に派遣された、ハリスロスは幣制改革に成功して次でカークパトリックが來た、懸案の對支借款はカークパトリックの來支後に於て具體化し、中南支五大鐵道網計畫並に海南島開發に關する計畫も進んだ。更に一九三七年二月の三中全會に於て支那は經濟建設五ヶ年計畫の實行を決定した、そして此等は何れも英、支合辦の下に行はれやうと云ふのであるから實に凄じいと云はなければならぬ。

日本が支那の幣制改革に關し、英國との共同工作を拒否したに就ては幾多の理由はある、併し其主なるものは支那の現狀に於て幣制改革は未だ其時期にあらずと云ふにあつた、而も英國が一度之に着手するや、何等の困難にも遭遇せずして完全に之を仕上げた。そのみならず以上述べたるが如き英國の對支諸計畫は、いづれも幣制改革が其基礎となつて居る、實に幣制改革は最近に於ける英國の支那進出の鍵であつたと云はなければならぬ。

六、對支經濟發展計畫の破綻

英國は斯の如く對支經濟發展政策に於て絶大なる成功を遂げんとした、若し英國が其トーン／＼拍子の成功に驕ることなく、飽迄も冷靜に飽迄も思慮深く其計畫に邁進したならば、今後幾年間の後には英國は全く其經濟力に依つて支那を支配するの地位に立ち得たかも知れぬ。政治も經濟も外交も甚だしきに至つては軍事迄も、凡そ事の支那に關する限り英國の意見のまゝに行はれざるなしと云ふ壓倒的地位を贏ち得たかも知れぬ、併し運命は甚だ皮肉であつた、英國は支那の經濟建設援助に努力する一方、日本の大陸進出を餘りにも嫌忌し、餘りにも嫉視した、之を阻止する方法として南京政府の抗日排日的行動を、全幅の賛意を傾けて支援した。

英國は南京政府の抗日的意向をいやが上に増大せしむることは、日本の對支發展を阻止するのみならず、當然の結果として中央政府の威力を益々増大せしめ、支那統一の偉業をも南京政府をして遂行せしむる所以であると考へたのである。

そして日本は滿洲事變以來、驚異的な一大飛躍をなしたが、支那を支持するものに大英國あることを知悉して居る。支那と戦端を開くことは、殆ど英國と戦端を開くに等しいことを忘れては居らぬ、既に日本に此思慮ある以上、支那が如何なる態度を以て日本に臨むも日本は斷じて支那に對して一指をも觸れ得るものでないと確信して居た。

見よ、反日抗日排日に原因する幾多の不祥事件は踵を接する如く起つて居る、日本の外務者は時に強硬なる態度を以て支那政府に肉迫しても、常に圓滿なる解決を遂げ得ず、其儘泣寝入状態に終つて居る、日本は到底武力に訴へて支那を壓服するの決心はない、萬一武力を以て起つとしても、支那の軍備は今や相當に近代化されて居る。結局は支那側の敗戦となるも、其時には干涉の手を下すのみ、北方にソ聯の脅威を感じつゝある日本は、斷じて此干渉を拒んでまでも其意志を貫徹する勇氣はあるまいと英國は高を括つて居たらしい。

故に支那政府の抗日的態度に對しては、單に之を聲援して居たばかりではなく、寧ろ聲援の程度を越へて煽動するが如き状態にあつた。そして支那の斯る態度こそ、日本の大陸發展に對する防壁たるの役割をなすものとして満足して居たのである。

英國の此誤れる支那中心の對日本政策は遂に破綻の日が來た、即ち昨年七月七日に於ける蘆溝橋の日支兩軍衝突事件である、戦禍は枯草に燃え移つた火の如く擴大した。併し英國は依然覺醒する處がなかつた、日本政府の現地解決、局面不擴大方針の發表を以て、日本政府の軟弱なる意向の現はれのみと觀じ、其成行を輕視して居た。北支に於ても英國の利權は無い譯ではないが、北支に於ての日支紛争は南京政府の存立に何等の影響を與ふるものではない。南京政府の存立に影響なき以上は、英國の今日まで築き上げた對支經濟進展計畫に何等の打撃もなきものとして實に落着き拂つて居たのである。

日支衝突の戦禍が北支にのみ限られて居るものならば、成る程英國の考へる通りであつたかも知れない、併し最近浙江財閥を経て英國より至大の援助を受けつゝあつた南京政府は、北支戦線に氣勢を添へ、聽て到來すべき和平交渉に有利の地歩を占める豫備工作として大軍を北上せしめ日本軍を制壓せんとした、が日本軍の進撃は疾風の如く速かに各方面に於て多大の戦果を收め始めた、其内に上海に於ても日支兩軍の衝突が起り、戦禍は擴大の一途を辿るのみである。

其ばかりでなく現地解決、局面不擴大を方針として居た日本政府の方針は、俄然全面的日支衝

突を認め、且つ第三國の干渉を絶対排撃する旨を聲明した、驚いたのは南京政府よりも寧ろ英國であつたであらう。日本の決意の極めて熱烈なるに對しては遂に策の施すべき事を知らぬ、唯だあるものは集團的威力を以て日本の鋒銛を押しやるの手段あるのみである。國際聯盟を動かさし、米國を誘ひ、一面に於ては日本の態度を以て侵略なりとする決議を行はしむると同時に、他面に於て九ヶ國條約國會議議まで開催して見たが、日本の態度行動を緩和せしむるに寸分の効果を認めぬ戦線に於ける日本の軍事行動妨害もともすれば失敗勝ちである、百方手を盡した日本壓迫策も今は最早如何ともする能はざるに至つた。そして肝腎な南京政府は遂に後退し最早全く起死回生の望なきに至つた。

英國としては幾個の南京政府が倒壊するも決して苦痛とはしまい、併し南京政府を對手として從來擴大強化し來つた對支經濟利益、並に今後大に發展を期した計畫が根本的に破壊撃滅さるゝことは正に最大の苦痛である。

英國の資本と材料と技術とを以て中南支に五大鐵道網を完成し、此鐵道幹線に沿ふて幾多の大工場を建設せんとする計畫も、英支合辦を以て海南島を開發せんとする目算も、支那の輕工業を

起して日本の對支經濟發展を阻止し、更に自國は重工業に全力を注いで支那の經濟市場を獨占せんとした策謀も、唯だ蔣介石政權が健在することに依つてのみ可能である。然るに此蔣介石政權が遂に織滅的打撃を受け全く回復の見込みなきに至つたとすれば、『英國の對支外交よ何處へ行く』の慘目なる感なき能はずである。

七、一般の觀測は餘りにも樂觀的

此時に當つて發生したのがイーデン外相の退却に依る英國外交の一大轉換である、チエンパレソ内閣は其組閣當時の方針に立ち戻つて、イーデン外交に依つて極端に悪化された對獨、伊外交を軌道に復せしむべく近く會談を行ひ、其と同時に極東政策に於ても大革新を斷行し、其五大外交方針に則つて『極東の事態を安定せしむるため日本と協定を結び、英國の在支權益の安全保障を圖ること』に方向轉換するであらうと豫期されて居る。

併し英國の極東政策は、獨伊に對して轉換されたるが如く、日本に對しても亦た果して良好に

轉換されるであらうか、最大の疑問は此點に存する。

廣田外相はイーデン外相退却、英政府勝利の報を入れ、二月二十五日の衆議院本會議に於て、政友會代議士深澤豊太郎氏の質問に答へ『我國の對英關係は漸次好轉に向つて居る』と答辯する事があつたまた、米國方面の觀測であると傳へられて居る處に依ると

チェンバレン外相はエチオピア合併を承認して伊太利の御機嫌を取り、次で獨逸との交渉に移り、進んでは極東に於ける日本の特殊の地位を認めて日英の提携を圖ると云つた筋書の下に外交方針を運んで行くであらう、これはヒットラー總統の滿洲承認以上に蔣介石一派に大きな衝擊を與へることは云ふまでもなく、局面は日本に取り益々有利に展開して居るのではないか云々

と云はれて居るとのことである、此等は英國の外交轉換に伴ひ、英國の極東外交も亦た事宜に適した轉換が行はれものと觀たものである、廣田外相までが等しく樂觀論を抱いて居ることは、我々に取つては甚だ心強いことと云はなければならぬ。

だが併しチェンバレン首相の外交方針と云ふのは、組閣當時即ち昨年春頃發表した方針である、當時はまだ日支事變は勃發して居なかつた、日支關係は支那側の抗日政策に依つて相當深酷なる紛争の豫兆を見ないではなかつたが、隣國としての交渉は尙ほ行はれて居たのである。

併し目下は決して然うではない、日本は宣戰の布告よりも一層深酷なる意味の聲明を一月十六日斷乎として發表して居る、そして蔣介石政權を徹底的に撃滅せずんば已まざるの覺悟を示して居る、チェンバレン首相就任當時とは全く其時の事情を異にして居るのである、然るに若しチェンバレン首相が就任當時發表した外交方針五大原則に基き今後の英國の對極東外交政策を豫斷せんとすることは、既に根本に於て甚だしき過誤に陥らんとするものではなからうか。

そればかりではない由來英國の外交ほど周知の如く老獪なるものはない、自國の利益を擁護し又は獲得せんとする場合には、如何なる手段方法も敢て選ばざるの觀がある、阿片戦争の如く高飛車に武力を行使するのは、戰果を急ぐ場合からざれば他に方法手段なき場合に限る、大概は第三國の力を利用して自國の利益擁護を圖るを常として居る。

或人は云つた『英國に於ては戦争は一のビジネスである』と英國が今日の強大を致すまで、戦はれたる戦争の數を算したならば、其言の決して虚偽でないことに氣付くであらう、併し其海外

發展史を翻いて見ると、其ビジネスたる戦争よりも、更に他國を利用して目的を達成したことが多い、世に老獪外交の定評ある所以である。

英國は嘗て西班牙を倒すため和蘭と協力した、和蘭に當るには佛國を利用した、佛國を挫くためには何回か諸國を驅り立て、對佛同盟をつくつたのである、露國に對しては佛國と協力してクリミア戦争を起し、露土戦争後のサン・ステファア條約にはオーストリアを與國として其に干渉して露國の南下を妨げた、また極東では我國と同盟して露國に當り、獨逸の躍進に對しては英露協商を始め佛・伊を支持し彼の世界大戰を勃發せしめたのである。

之は有名な話であるが、歐洲大戰當時獨逸は從來の親善關係から考へ、英國は斷じて聯合國側に立たざるものと考へて居た、然るに白耳義中立條約違反を理由とし聯合國側として蹶起するに及び獨國宰相ベートマン・ホルウエヒは英國は一枚の紙片の爲めに多年の親交を無視し、ウオートルーの戰友を敵とするかと憤慨したとのことである。

英國の眼中には多年の親交もウオートルーの戰友關係もないのである。唯だ有るものは利害あるのみである、獨逸が急激なる發展を遂げ、英國の脅威となるに及んでは、最早多年の親交な

どにはこだわつて居らぬ。つい一兩年前まで日本を利用して大打撃を與へた露國と一九〇七年に協商して獨逸を押えんとし、更に一たび歐洲大戰の勃發するや、百八十度の轉回振りを示して獨逸攻撃を開始するは決して異とするに足らぬのである。

八、前途は斷じて樂觀出來ぬ

斯の如く英國外交の習性を見て來ると、英國の極東政策は、イーデン外相の退却に依る外交方針の轉換と共に、甚だしき變化を來たすべきことは確かであるが、之が爲め廣田外相や、歐洲外交通の觀るが如く日本に取りて好轉若しく有利に轉換するものと早呑込みすることは甚だ危険であると思はなければならぬ。

外務省には無論幾多の之に關する情報が集められて居るであらう、此情報に基き外交當局者としての多年の經驗から割出して好轉する者と見れば、たとへ間違ひがあるにしても大した間違ひがあらうとは思はれぬ、亦た歐洲外交通の觀測も其通りである。外交の推移を觀測することを以

て其長い生活として居るとすれば、十中の七八は必ず前途を見極めるだけの能力を有して居るものと見なければならぬ、併し英國が従來の態度を一變し、日本の特殊的地位を再認し、之と提携して支那に於ける英國の經濟的發展を圖ると、蔣政權を回生せしめて之をして再び支那全土に君臨せしめ、一たび破壊に瀕した計畫を再建して百年の大計に邁進すると、英國に取りて何れが利なりとするであらうか。

我々の眼から見れば、蔣介石政權は最早持耐へることの出來ぬ瀕死の窮地に立つて居る、其没落は時間の問題とまで逼迫して居る。假りに之を援けて南京政府を再興せしむるにしても其は決して容易なる事業ではない、此際英國は宜しく蔣介石政權の前途に見切りを付け、従來の援助的態度を一擲して日本と提携し、其既得權益に依りて將來の對支經濟發展を企圖するに如かないのである。

併しながら英國にして觀れば、今日尙ほ對支借款を云々して居る處を見れば、未だ蔣介石政權の命脈が最後の段階に立つて居ると見ないのかも知れない、英國が更に強力なる援助を與ふるに於ては、必ずしも其勢威を盛返へさすとも限らぬ、元來英國の對支發展は支那政府當局と直接聯

携し、他に何ものゝ工作を共にせねばならぬものゝない境地に於て、始めて縱横無盡の活躍をなし得る、故に此際は新に日本と提携することを考へず、一路邁進既定の方針を敢行するに如かずと考へて居るのかも知れない。

若し我々が見るが如くであつたならば、慧敏なる英國のことである。過去の行懸りに捉はれることなく、斷乎として蔣介石政權に對する援助の手を切つて日本と提携するに相違ない。此點から見れば英國の極東政策は、廣田外相並に歐洲外交消息通の觀るが如く好轉し來るものと見るのが至當であるかも知れない。併し若し英國の考へが、後者であつたとしたならば、英國の極東政策は従來よりも一層悪化こそすれ、毫も好轉する見込みはないのである。

即ち外交方針の一大轉換に依りて獨逸に對する會談や、伊太利に對する交渉が豫定の如く圓滿なる進行を見るに於ては、緊迫せる歐洲の國際政局は茲に久しぶりの緩和を招來し、英國に取りては最も悩みの種であつた地中海に於ける伊太利の脅威も解消する、西班牙問題も後顧の憂ひなき範圍に到達する。殖民地返還問題の解決は至大の難問題であるが、今後の問題に留保することに依つて差當つての急務たることを免かるゝに至らう、そして歐洲に於ける海軍々備の餘力を、

安全化した地中海を経て極東に輸送することが出来るのである。其上香港の防備も略ぼ完了したシンガポール軍港も東洋のジブラルタルとして嚴然たる威容を備ふるに至つた。米國を誘引し、佛國を加擔せしめ、ソ聯を勾引して獨、伊の斡旋を依頼するに於ては、日支紛争に對する調停に乗出だし得ることも決して不可能ではない。唯だ此際日本の態度如何が問題であるが、軍備、外交兩方面の水も漏らさぬ整然たる陣容を整ふるに於ては、没落の最後の段階にある蔣介石政權を救ひ、破綻に瀕した對支發展策の續行を企つることも決して困難にあらずとの考への下に、英國が極東政策を再建するに至つたならば、其結果は果してどうなるであらうか、若し以上の様に轉換されたとしたならば、英國の極東政策は好轉どころか、寧ろ最大惡轉をなすものと云はなければならぬ。

最近の報道に依ると蔣介石は英國の對支援助が極めて消極化したのに憤慨し、此上はソ聯と提携して全支那を共產革命の渦中に捲き込み、之に依つて長期抗戰を敢行せんとしつゝあることである、此事に就ては廣田外相も二月四日の衆議院國家總動員法案委員會に於て

支那側の蔣介石の氣持の一部には若し他の國が助けなければ支那はソ聯と一緒になつて所謂

共產革命、共產運動で支那を混亂に陥れて之に依つて日本に對する長期抗戰をすると云ふ考へ方もいたしてをるのであります。これは東洋將來の爲め日本にとつてのみならず、世界各國にとつて非常な脅威を含んでゐる問題であります。云々

と報告して居る。實に重大なる問題である、が、甚だ重大なる問題であるだけに、或は蔣介石が英國の干渉を誘發せんとする宣傳であり、亦た英國が仲裁の手を差延べんとする前觸的宣傳ではないかと見て見られないこともない。

其他最近では鑛石採掘權を擔保とした總額一億六千萬弗の米支大借款成立説が傳へられて居る又た一方では雲南緬甸鐵道に關する英支借款説が傳へられて居る。いづれも一應は否定せられて居るが、事變後に於て成立したる列國の對支利權は帝國政府は一切之を認めざる旨聲明しつゝある際に、斯る借款説の頻々として傳へらるゝは果して何の意味か、要するに英國の極東政策はイーデン外相の退却に依る英國外交大轉換の一部として確に轉換せらるべきことは明白であるが、其轉換の方向に關しては、斷じて遽かに樂觀し能はざることを我々は特に銘記しなければならぬ。(完)

昭 和 書 房 發 賣 書 目

(錢三科送 錢十册各價定)

—りあに店書名有・店賣驛國全◇

◇いさ下込申御接直は際のれ切り賣

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
大東時局研究會編	山田 文吾著	山科 潜著	山田 文吾著	長谷川文人著	安藝 濱雄著	杉山 瑛二記	長谷川文人著	山田 文吾著	長谷川文人著
第二次増税と戦時財政の前途	一國一黨は果して可能か	蔣介石政權は今後どう抗戦するか	危局對處に躍る戦時議會	緊迫せる極東	焦燥の英國	上海より南京を衝く	極東制壓を企らむ英國の大軍備	斷じて免かれぬ長期作戦	いよく迫る英米對日本の抗爭

昭和十三年三月十二日印刷
昭和十三年三月十五日發行

【英國の極東政策は如何に轉換するか】
定價 十 錢(送料三錢)

不許複製

(全國主要驛
書店・書店に
て發賣)

大取次

東京鐵道局公認(鐵道保獎會・鐵道公濟會)
(京阪神)新正堂書店(名古屋)南進堂書店
(宇都宮)淺野屋書店(静岡)吉見書店
(福岡)博向堂

發行所

東京市芝區新橋四ノ四六
昭 和 書 房

著 者

安 藝 濱 夫

發行人

東京市芝區新橋四ノ四六
前 川 傳 二

印刷所

東京市芝區新橋三ノ二〇
更 生 社 印 刷 所

長谷川文人著

定價十錢（送三錢）

極東制壓
を企らむ

英國の大軍備

英國の對支援助は今や掩ふべからざる事實である、日英危機の叫ばれつゝあるは之が爲めだ、然らば英國には極東に於て果して如何なる軍備があるか、小冊子にして其詳細を述べ盡したるもの、本書を措いて他に其比を見ない、時局多難の折柄、切に愛國の士の一讀を勸めて已まぬ所以である。

（賣場に品切の節は直接當書房に御申込下さい。）

昭和書房

東京・芝・新橋
一五九四
九四四
七六

